



東郷和彦氏講演会「ウクライナ 外交的解決への道」

この講演は6月14日にビジョンセンター浜松町で行われました。ご講演は4部構成であり、1部では戦争終結に向けたロシア、ウクライナの条件について解説、2部ではアメリカの停戦に向けての動き、米露協議や遂に実現したロシア、ウクライナの二国間協議について解説、3部では、この戦争のきっかけとなった根っこの原因、「Root Causes」とはなんなのかという点について解説、4部では、東郷氏の著書や、近年の知識人の動向、そして、最後に、これからの日本外交はどのような立ち居振る舞いをするべきかという点について提言されました。

ロシアが好きでロシア語を学んでいる身としては、今回の戦争が始まったことは誠に遺憾であり、今回のアメリカ大統領選挙でロシア、ウクライナ戦争の終結を公約としていたトランプ大統領が就任したことは非常に嬉しく、早急に罪のない人々が亡くなる戦争が終わって欲しいと願いました。それと同時に前大統領であるバイデン氏のロシア嫌いは相当なものであったと感じた。開戦前は常にロシアのことを煽り続けており、さらに3部にて2014年にウクライナで起きたマイダン革命の裏には当時副大統領であったバイデン氏が絡んでいるということを知り、アメリカの卑劣さを感じると共に、世界に影響力を及ぼすアメリカの強大さ、凶悪さも実感しました。

(創価大学文学部3年 柳井正勝)



6/14(土)に東郷和彦様 (外務省元欧亜局長、静岡県立大学客員教授) による現下ウクライナ情勢についての講演会を開催しました。東郷先生 (以下、東郷

氏) は、元外交官で90年代から2000年初頭にかけて日本とロシアが平和条約、北方領土の外交交渉を活発に行っていた頃に外務省で活躍された事でも有名です。当時の部下であった佐藤優氏 (作家) による小説『国家の罫』等にも描かれる歴史の証人による現在の日ロ関係の解説を今回聞いたのは貴重な機会でした。氏の著書『プーチンVSバイデン』(K&Kプレス、2022年) が今回のウクライナ戦争に対する解説、見解の元ともなっています。特に本年1月に米国トランプ大統領が誕生してからの、米ロウ欧による停戦交渉への期待と、最近の外交交渉で「交渉のメカニズム」を一步步構築していく経緯が信頼関係の醸成につながると指摘され、外交の基本を教えて頂いた気がします。

現在の日本の対応として、石破総理がこの停戦交渉でもっと活躍して欲しいと強調され、予想より長めの講演に質疑応答の時間も足りませんでしたが、終了後の懇親会は素敵な食堂で20名以上がご参加いただき、おかげさまで盛況でした。

今も犠牲が増え続けるこの戦争の早期の終戦そして和解に向かうため、どのように外交的解決が可能なのか。上記の著書で私が印象に残った一文を紹介させていただきます。「交渉をまとめるためには、相手の立場をよく理解し、相手に51を譲り、こちらは49で満足するという心構えが必要であると私 (東郷氏) は学んできた (同書P109)」。

(事務局長 江本大輝)